

世界農業遺産(GIAHS)の認定基準と評価の視点

国連食糧農業機関が定める認定基準		評価の視点	
必須基準	1. 申請された GIAHS の特徴	<p>世界的(又は国家的)な重要性という複合的な基準の下に、伝統的・歴史的な農業システムの総合的価値が確立され、それが人類(又は国家)の遺産としてある特定の地域によって代表される。そして、それに関連する5つの基準における世界的(又は国家的/地域的)な「公共財」の価値を合成することになる。その5つの基準をまとめ、結合することにより、これらのシステム要素間の複雑な関係、ポジティブな連携性及び関連性が総合的なシステムとして統合される。</p> <p>社会環境バランスを保つ潜在的レジリエンス(回復力)と能力、人類の発展における歴史的又は現代的な重要性、地域がそれを代表する農業システムのユニークで顕著な事例かどうか、そして類似のシステムや地域と比較して農業的な伝統の価値(重要性)があることについての、システム又は地域の個別の特徴の世界的な重要性の要約情報を提出すること。</p> <p>システムの顕著な特徴を、持続可能な発展、生態系管理やその文化的・農業的遺産価値に関する地球規模課題への重要性という観点から要約すること。システムが提供する全体的な機能性や財とサービスを表す世界農業遺産認定のための5つの基準は以下のとおりである。</p>	<input type="checkbox"/> 世界に類を見ない、日本を代表する伝統的・特徴的な農業・農法(林業、水産業を含む。「2.(1)食料及び生計の保障」の3番目の項目を除き、以下同じ。)を有しているか。 <input type="checkbox"/> 伝統的・特徴的な農業・農法を核とした持続可能なシステム(以下「農業システム」という。)が構築されているか。 <input type="checkbox"/> FAO必須5基準に示される事項が相互に関連性を持ち、バランスの取れた内容となっているか。 <input type="checkbox"/> 地域の設定は適切で、タイトルは、農業システムのコンセプトを適切に表しているか。
	2. (1) 食料及び生計の保障	<p>候補地の農業システムは、地域社会(多くの場合は地域固有のコミュニティ)の食料及び生計の保障に貢献し、その生計源の大部分を占めること。そして比較的安定してレジリエンス(回復力)のある食料及び生計システムを構築する、地域社会間での供給と交換を含めること。</p>	<input type="checkbox"/> 伝統的・特徴的な農業・農法及びこれから派生した関連産業は、地域住民の重要な生計の手段となっており、小規模農家、家族農業も持続的に維持されているか。 <input type="checkbox"/> 伝統的・特徴的な農業・農法及びこれから派生した関連産業は、地域における主要な産業の一つとして、地域の経済・雇用に貢献しているか。 <input type="checkbox"/> 農業、林業、水産業間の連携及びこれらに関連する多様な産業間の連携が図られているか。
	2. (2) 生物多様性及び生態系機能	<p>農業の生物多様性及び遺伝資源(種、品種・血統)、野生近縁種、授粉者及び野生種生物等農業システムや景観と関わるその他の生物多様性を指す。このシステム又は地域は、世界的に(又は国家的に)重要な食料及び農業に関する生物多様性と遺伝資源(例えば、作物、動物の固有種、稀少種、絶滅危惧種等の農作物や生物)に恵まれていることが要求される。</p>	<input type="checkbox"/> 多様な動・植物が生息するなど、生物多様性の保全が図られているか。 <input type="checkbox"/> 農業システムと生態系機能(生態系サービス)との関連性が適切に示されているか。 <input type="checkbox"/> 農業・農法に多様性(農作物、規模等)があるか。 <input type="checkbox"/> 営農を通じた遺伝資源の保全が図られているか。
	2. (3) 知識システム及び適応技術	<p>豊かな知識、生物相、土地・水等の天然資源の管理体制及び独創的な技術、並びに農業生態系管理の慣習的な機関及び資源へのアクセスとその便益共有に関する規範的な取り決め等に関わる社会組織及び機関が維持されている。</p>	<input type="checkbox"/> 土地・水資源(森林資源、海面等を含む。)の活用等に関して、地域の環境に適応し、制約要件を克服するための優れた知識や技術があるか。 <input type="checkbox"/> 伝統的な知識や技術が継承されているか。 <input type="checkbox"/> 資源へのアクセスや利益配分を適切に行う慣行、知識や技術を継承するための社会組織・機関が存在しているか。
	2. (4) 文化、価値観及び社会組織(農文化)	<p>環境と農事暦に関連した世界観、価値体系、農文化の慣習、知識移転を果たす祭礼及び儀式。地元の機関は、環境と社会経済的な目標とのバランス、レジリエンス(回復力)の強化、農業システム機能のためのあらゆる重要な要素とプロセスを再生する重大な役割を担う。そのうち、天然資源へのアクセスやその保全と公平な利用の促進を確保することもあれば、生物多様性、土地・水の保全を促進するような伝統的知識システムと重要な価値を伝達することもあり、計画、連携とイノベーション・適応を促進することもある。これらの組織はタブー、儀式・祭礼等の儀式的又は宗教的な信仰と慣習、資源保有に関する慣習法や紛争解決、親縁関係・婚姻や継承体制、意思決定や連携を率いるリーダーシップ、口伝えや記録された伝統、教育や指示を伝える手段及びゲーム、性別の役割と特殊機能を含む役割分担及び労働分担、という様々な形をとることができる。</p>	<input type="checkbox"/> 地域において伝統的、文化的、精神的、宗教的、社会的な取組が行われているか。 <input type="checkbox"/> 農業システムに関連した農耕祭事・神事等の文化が継承されているか。 <input type="checkbox"/> 農文化や価値観を継承するための社会組織が存在し、地域住民を対象とした教育や社会行事等が行われているか。
	2. (5) 優れた景観及び土地と水資源管理の特徴	<p>入り組んだ田畑の土地利用、灌漑・水管理システム、段々畑、特定の生態系に適応した建築物等環境的又は社会的制約を解消するための独創的で実際的な解決策、資源保全・効率性や重要な生物多様性、総合的レクリエーション価値や非営利的な用途(生態系の美学的、芸術的、教育的、精神的及び科学的な価値)を提供する。</p>	<input type="checkbox"/> 農業システムと周辺環境が一体となった美しい優れた景観があるか。 <input type="checkbox"/> 景観を構成する土地・水資源は、レクリエーション価値や歴史的価値を有し、地域における教育や地域の一体感の醸成等に活用されているか。 <input type="checkbox"/> 優れた景観や生物多様性は、営農を通じて動的に保全されているか。
	3. (1) 農業システムの管理に関するその他の社会的・文化的特徴(任意)	<p>・関連する構造:これらの有形の価値は、地域における管理において特別の社会的、生態的機能を有するであろう。それらは、環境的に持続可能で資源効率的な住居、農業システムの管理にとって儀式的・社会的意義のある建築を含み、種子貯蔵庫のような特別の機能を有するであろう。</p> <p>・神聖・儀礼的な場所(有形・無形)</p> <p>・道具と技術(有形・無形)</p> <p>・関連する文化的表現の形:食文化、祭礼、芸術、音楽等(有形・無形)</p>	<input type="checkbox"/> 地域に特有の食文化や建築様式など、農業システムに関連した社会的・文化的な特徴があるか。
	3. (2) 歴史的な重要性	<p>歴史的な重要性は、その農業システム又は地域における農業生物多様性の定着と発展への貢献や、貴重な景観の創出、何世代にもわたっての農業知識と技術の発展、そして一般的な人間、社会的・文化的な発展で構成されている。さらに、歴史的な重要性は、そのシステム又は地域が持続的だったか、環境や社会経済的変化に対してレジリエンス(回復力)が示せたかによって決まる。</p>	<input type="checkbox"/> 地域の歴史において、農業システムが長年にわたって重要な役割を果たしてきていることが証明されているか。 <input type="checkbox"/> 日本の農業史・社会史に照らして、地域の農業システムは特徴的な内容を有しているか。

その他の基準	3.(3) 現代的な重要性	農業システム又は地域の現代的な重要性は、食料と生計の保障の提供、人間の幸福や生活の質への貢献、そして地域と社会に地域的、国家的や世界的な経済的・環境的な財とサービスを生み出す現在及び将来的な可能性によって確立される。そのため、この基準は農業システム又は地域の世界的及び国家的政策と持続可能な発展への課題との重要性、気候適応、炭素貯留、水、土地及び生物多様性の保全のような、特に食料安全保障、人間の幸福及び環境目標を達成することを指す。この基準のもと、ほかのところでも応用できるような、システム又は地域によって得られた特定の教訓や原則を強調すべきである。	<input type="checkbox"/> 農業システムが、生物多様性の保全、気候変動への対応など地域又は国家における現代的な課題に貢献しているか。
	3.(4) 脅威と課題	システムの継続した存在及びその持続性と存続に対する社会経済的な圧力と変化を含む脅威とその課題を確認して、分析すること。経済的、社会的、環境的、政治的な性質の発生と傾向に特に注意を払って、これらの脅威の地域的、国家的、世界的な性質を確認、分析すること。システムの人的及び生態学的な活動の変化によってその生態系の健全性、資源の賦存と人間の幸福に対するそれらの影響を例示すること。	<input type="checkbox"/> 社会・経済的、環境的な脅威とその影響が適切に示されているか。 <input type="checkbox"/> 脅威を克服するための具体的な対応策が提案されているか。
	3.(5) 実践的な考慮	a) 現行のGIAHS推進活動 b) GIAHSの持続可能性と管理のための可能性と展望 c) GIAHSの期待される社会と生態系への影響 d) 地域住民、地域・国家当局及び他の関連するステークホルダーの動機	<input type="checkbox"/> 農業システムを保全するための持続的な活動が行われているか。 <input type="checkbox"/> 地域内外の利害関係者(ステークホルダー)の役割が明確化され、連携体制の下で活動が実践されているか。
	4. GIAHS認定地域の活用・保全計画	申請書は「活用・保全計画」について下記の点を説明した概要を含むこと。 ・すでに実施しているGIAHSの推進と新たに付け加える活動、政策と経験のベースラインの記述 ・システムを活用し、保全するために必要と予想される取組(参加型アプローチと地域主導を通じて得られるもの) ・これらの取組は申請書に説明された脅威に対してどのように対応できるか ・これらの取組は支援金を集めるためにどのように活用されているか、また、国家資金(発展途上国の場合は国際協力機関)をどのようにして引き付けるか ・組織的な参加と定着(地域、地方、国家のレベルにおいて、このイニシアティブに責任を持つかあるいは参加する組織の支援と関与)	<input type="checkbox"/> 活用・保全計画(アクションプラン)の柱立ては適切で、かつ具体的内容が明示されているか。 <input type="checkbox"/> 活用・保全計画(アクションプラン)の実行を確実にするための措置(予算措置、モニタリング等)や組織が適切に組み込まれているか。
添付資料	農業システムや地域の位置図		<input type="checkbox"/> システム又は地域の位置図は、農業システムや地域の概要が簡潔かつ正確に記載されているか。(申請書本文に挿入することでも良い)。
	農業の多様性、関連する生物多様性のリスト		<input type="checkbox"/> 生物多様性のリストは、学術的な視点から整理されているか。
	農業システムや地域の歴史的、考古学的な背景の説明(任意)		<input type="checkbox"/> システムや地域の歴史的、考古学的記述は、歴史的、考古学的な視点から、農業システム又は地域の特徴を明らかにしているか。
	写真		<input type="checkbox"/> 写真は、申請書記載内容の理解を容易にするような写真が適切に添えられているか。(申請書本文に挿入することでも良い)

(参考)日本の農業の視点から考慮すべき項目(※)

考慮すべき項目		取組の視点
1. 変化に対するレジリエンス【環境的側面】	自然災害が頻発し、生態系の変化が続いてきた日本においては、多くの農業システムが長い歴史の中で自然災害の試練に耐え、生態系の変化に対応して進化してきた。このため、これらの伝統的・独創的な農業システムの中には、特に自然災害や生態系の変化に対するレジリエンスの機能が内在されていると考えられる。将来も起こり得る自然災害や生態系の変化に対応して、農業システムを保全し、次の世代に確実に継承していくために、自然災害等環境の変化に対して高いレジリエンスを保持する。	<input type="checkbox"/> 地域の伝統的・独創的な農業システムは、自然災害や生態系の変化に対し早期に回復する能力を有してきたか。
		<input type="checkbox"/> 将来も起こり得る自然災害や生態系の変化に対し、早期に回復する能力が見込まれるか。
		<input type="checkbox"/> 自然災害や生態系の変化に対して、農業システムを保全し、次の世代に確実に継承される仕組みがあるか。
2. 多様な主体の参加【社会的側面】	農村地域では、高齢化、過疎化による担い手不足、コミュニティ機能の低下、生活習慣や価値観の変化等の社会的な変化が生じている。このような変化に対応し、地域固有の農業及び関連する地域文化や生態系保全のシステムの維持・活性化に向けて、地域住民のみならず都市住民、企業、行政、NPO等を含む多様な主体の参加による自主的な取組を通じた地域の資源を管理する新しい仕組み(「ニューcommons」という)によって、独創的な農業システムを次世代に確実に継承する。	<input type="checkbox"/> 女性や若者を含め、地域の多様な主体が参加し、主体間の連携が図られているか。
		<input type="checkbox"/> 自治体の積極的な関与や大学・研究機関からの学術的支援など、農業システムを保全していくために十分な体制が整備されているか。
		<input type="checkbox"/> 多様な主体が参加しやすくなるような環境づくりや取組が行われているか。
3. 6次産業化の推進【経済的側面】	農業においては、市場価格の変動、為替レートや金利の変動、市場の取引相手・デフォルトリスク等の経済的な変動が生じている。このような変動に対応し、歴史・文化を活用し、農業、観光等の産業間の連携による農産物のブランド化や観光振興などシステムとしての地域ぐるみの6次産業化等(「ニュービジネスモデル」という)の推進により、地域を活性化させ、農業システムの保全を図る。 なお、6次産業化による利益は、農業システムの保全に寄与している者に対して、適切に配分されるべきである。	<input type="checkbox"/> 農業システムを活かした6次産業化の推進が図られているか。
		<input type="checkbox"/> 農産物のブランド化や観光振興による地域活性化が図られているか。
		<input type="checkbox"/> 6次産業化による利益が、農業システムの保全に寄与している者に適切に配分されているか。

※ 本項目は、日本の農業システムとして備えていることが望ましい事項を取りまとめたものである。GIAHSの認定申請に当たって、直接的な評価対象となるものではないが、持続的な農業システムを構築し、推進する上で、本項目を参考とした取組が望まれる。